

第一回「召命担当者の集い」での報告原稿 若者へのアンケートから見えてくるもの

Sr. M. Immacolata 寺田

このアンケート実施の動機について簡単に申しますと、教会は、召命活動や召命の活性化に大いに関心があるところですが、では、実際にわたしたちは、現代の若者たちの今の状況や状態、考えなどをどのくらいわかっているだろうか？という疑問がわき起こりました。このアンケートをとおして、いくらかカトリック教会における青年たちの状況、本音を引き出すことができれば、これから青年たちと接し、召命のお手伝いをするうえで役に立てるのではないか、との思いで実施するに至りました。アンケートのために協力してくださった多くの方々に感謝いたします。

アンケートの対象は、洗礼を受けている、受けていないに関わらず、カトリック教会の10代から34歳までの青年たちといたしました。また、回答の表現や言葉、文字は、あきらかに書き間違い、というものの以外は、できるだけ若者本人が書いたものをそのまま書き写しました。

それでは、このアンケートの結果から見えてくる若者について見ていきたいと思います。

まず、現代の若者の人間関係について、若者の関心事とかなり結びついていると思いましたので、合わせてまとめてみますと： 3ページの「休日は主に、外出するか、家にいるか」の質問に対して、大半が「外出する」と答えています、次のページの、今やあたりまえとなっている、パソコンや携帯によるメールのやりとりは、平均して10通から20通くらいでしょうか、少なくとも、1日に何通かは必ずと言っていいほど送受信している。

そして、6ページの「親友がいるかどうか」への回答の内容や、「友だちといると楽しい」と答えた人がほとんど全部だったことをみますと、多くは、人との関わりを肯定的にとらえ、大きな関心を持って、また積極的に関わろうとしている様子がうかがえると思います。

6ページの「ひとりである方が好き」かどうかについて、回答が多かったのは「いいえ」の方ですが、「はい」と答えた人の中には、その上の欄の「友達といると楽しい」と「ひとりである方が好き」の両方にまるをつけていた人も何人かいました。臨機応変に無理をせずつきあっている、というところでしょうか。しかし、人間関係の難しさを感じている若者も回答は少数でしたが、見逃せません。どの世代でもそうでしょうか、良くも悪くも人との関わりが課題になっている、といえると思います。

そして、9ページから13ページの上の方にかけて、家族に対しての質問には、ほとんどが前向きな回答で、回答率も高く、積極的に書いてくれました。それだけでも家族に対する関心事は大きく、いいところや、弱点も含めて、大切にしているという印象をうけました。

虐待に関する質問や、死にたいと思ったことがあるかどうか、といったかなり思い切った質問をしましたが、今、一般社会でも家庭問題、幼児虐待など、大きな問題となっていますので、召命チームの間でも意見を交換し合って、思い切ってこの質問を取り入れました。

15ページの「死にたい・・・と思ったことが『ある』」と答えた人の思いとどまったきっかけが、本人の信仰と、それからほとんど、人との関わりが挙げられているのをみますと、家族や友人など、身近な人の存在、他の人の存在の大切さや、“助けられている”ということを感じて実感している、繊細な部分も見えてきました。

アンケートの中で、直接にどんなことに関心があるのか、という質問はありませんが、先にも申しましたように、家族に対して、ほとんどが大切な存在として受け止めていること、そして、気になる召命に対しては、20ページにあります「司祭、修道者への召命に関して」に対する回答と「結婚に関して」に関する回答を一緒にみますと、多くは、将来は結婚して家庭を持ちたいという夢を持っているという結果がうかがえますが、ただし、司祭、修道者への道を考えながら、同時に「結婚したい」の方にも両方に印をつけている人が多かったですので、両方の間で揺れている若者もけっこう多いのではないのでしょうか。

それから、教会について、信者や若者の減少や教会のあり方など真剣にとらえている回答も多く、カトリック信徒としてどのように福音宣教ができるかに関心を持って心を砕いているさまが見てとれました。

次に、現代の若者の信仰心についてですが、3ページで、毎日曜日にミサに与っている、との回答が多いことや、「日曜日が休みである」との回答が圧倒的に多いこと、また、13ページで、教会には、大半が“喜んで”行っていることから、主の日を大事にし、ミサになるだけ参加しようとしている姿勢がうかがえます。その反面、仕事との両立で悩んでいる若者もいる、ということも、見逃せません。

9ページで、「家族全員がカトリック」との回答が大多数でした。彼らの信仰のありかたの背景に家庭環境も大きく影響しているのではないのでしょうか。

15ページで、「自分は神さまに愛されている」と感じるかどうかの質問に対して、4番の「ほとんどない」と答えた人は全体の1人だけでした。この1人の回答者も見逃してはいけませんが、ほとんどの青年は日常の中で何らかの形で神さまを意識している。それは、16ページの「祈りについて」の質問に、①番の「よく祈る」と②番の「必要な時に」が大半を占めていることからわかります。

また「祈りが聞き入れられた、という経験」が「ある」答えた青年たちの具体例を見てもそれが見て

とれると思います。

しかし、「祈りが聞き入れられた」ことが「ない」という青年も少なくはないと思います。それと、17ページの「カトリックの信仰に助けられた」という経験があれば・・・の欄に記入してくれた人たちは、生活の様々な場面で恵みを感じ取っているのが分かりますが、回答率を見ますと、ここは半分以下でした。そのことから、ここを空白にした人や「祈りが聞き入れられた経験」が「ない」と答えた青年たちが、カトリックの信仰をどのようにとらえているか、また何を神様からの恵みととらえているか、が新たに気になるところです。

それから、全体的に見えてくる青年たちの信仰心について、個人的な意見ですが、大きく見て、男性は「大志を抱け」のタイプで、女性は、身近な幸せや愛情などをおして信仰を育んでいる、という印象を受けました。

現代の若者の教会への要望について見てみますと：

特に13ページからの「教会の中で『青年は大切にされている』と感じる」かどうかへの回答や、19ページの「教会について」への回答が参考になると思います。

そこから見えてくるのは、教会の中で青年たちに何らかの活動、仕事を任せてほしい、青年を理解してほしい、声をかけてほしい、と望む一方で、若いという理由でこきつかわれる、とか、利用されている気分になるような関わり方はしないでほしい。それよりも、青年たちの活動を温かく見守り、応援する姿勢、そして協力するという形での関わりを望んでいるところが見えてきます。

それから、先にも言いましたが、教会のあり方についても真剣に考えているのではないのでしょうか。具体的には、信仰教育の必要や、教会の中だけでなく、もっと外に向けて開かれなければならない。また、もっと祈りをするなどが挙げられています。そして、何とかして教会に人、特に若い人が集まるようにしたい、というのは教会、青年たちにとっても大きな課題であるということが見てとれました。

以上、アンケートについての内容報告でした。ありがとうございました。